

# ランドセル×ジェンダー

## ー私らしく、君らしくー

柳田詩織<sup>(1)\*</sup>, 甲斐優莉<sup>(1)</sup>, 松田結衣<sup>(1)</sup>, 安藤百香<sup>(1)</sup>

<sup>(1)</sup>延岡高等学校 Nobeoka High School

**Abstract** このスペースに論文の要約を入力しましょう。

私達の研究の動機は、現在世界中でジェンダー平等実現に向けての動きが活発化していることを踏まえて、身近な例である「ランドセル」に着目して人々のジェンダー観の変化を確かめようと考えたからである。研究からわかったことは、ランドセルの色についての固定観念は現在になるにつれて薄れていることがわかった。同時に固定観念や偏見の移り変わりには雑誌などのメディアが大きく関わっていることがわかった。このまま研究を続けていけば、固定観念を変えていくための有効なメディアの活用の仕方を見つけ出せることが期待される。

**Keyword** 固定観念 / 好みの尊重 / ジェンダー

### 1. 序論

#### (1) 研究背景

現在、世界中で“ジェンダー平等を実現する”という動きが活発化している。そこで身近な「ランドセル」に着目して、人々のジェンダー観は本当に変化しているのかを確かめようと思った。

ランドセルを一つの指標にしたのは、昔は女性は赤、男性は黒という風潮があったのに対し現在のランドセル売り場を見てみると様々な色のものが販売されていたため、そこに関係性があるのではないかと考えたからである。

#### (2) 研究の目的

現在も根強く残っているジェンダー観に対する偏見を取り除くための対策を考えることを目的に研究した。

#### (3) 過去の研究成果

林雅代・山田彩佳(2022)

「ランドセルの歴史と日本人のジェンダー観の関連に関する研究」

大衆が頻繁に目にする雑誌やメディアには、男の子が黒いランドセルを背負っている一方で、女の子が赤いランドセルを背負っているというような固定観念を示す挿絵が多く見られることがある。このような表現が繰り返されることで、子どもたちや親の間で男女間でのランドセルの色に関する役割分担や選択肢に対するイメージが形成され、固定観念が広まる一因となると考えられると述べられている。

#### (4) 研究仮説

年代が進むほど色の種類が増えたのは、雑誌などの影響で固定観念が薄れ選ぶことのできる色の選択肢が増えたためなのではないだろうか。

### 2. 調査方法

#### (1) 材料

- ・タブレット
- ・アンケート用紙
- ・QRコード

#### (2) 調査方法

調査方法として、『自分が小学生の時、何色のランドセルを選び、使っていたか。各家庭の親、兄弟、に回答してもらうようにし、結果が年齢別になるように回答して貰った。

延岡高校の2年生とその家族を対象に、各年代が持っていたランドセルの色と選んだ理由を調査するためにGoogleフォームを使用した。4つの年代(小学生、高校生、40歳未満、60歳未満)に分け、男女それぞれにアンケートを行ったが、男性の回答数が少なかったため、女性のための集計となった。集計した結果を分析し、各年代の全体的なランドセルの色に対する赤色のランドセルの割合を示すグラフを作成し、各年代で最も多かった「ランドセルの色を決めた理由」を表にまとめた。

#### (3) アンケートの内容

アンケートでは以下の4項目を尋ねた。

- ①性別
- ②年代
- ③現在使用している又は使用していたランドセルの色
- ④ランドセルの色を選んだ理由

#### (4) 定義

- ①性別  
男性/女性  
の2択とする。
- ②年代

小学生/高校生/18歳～40歳未満(高校生は含まない/40歳以上～60歳未満)の4択とする。

③現在使用している又は使用していたランドセルの色  
赤/青/黒/黄色/茶色/緑/水色/黄緑/ピンク/紫/シルバー/ゴールド/白/ベージュ  
の16色とする。

④ランドセルの色を選んだ理由

- ・好きな色だった
- ・親(祖父母)からのプレゼント
- ・親(祖父母)の好み(選ばれた)
- ・店員さんのおすすめだった
- ・便利な機能があった
- ・模様が好きだった
- ・好きなキャラクターのものだった
- ・汚れが目立たない
- ・学校が色を強制した
- ・女の子、男の子だったから(性別)
- ・素材が良かった
- ・値段
- ・友達とお揃い
- ・好きなブランドのものだった

の15の選択肢とする。

3. 本論

(1)調査結果1

・アンケート調査の結果

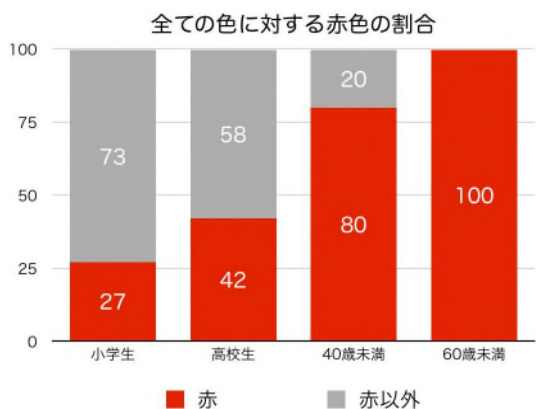


図1

上記の図1は、4つの世代別の女性が持っていた(持っている)ランドセルの色に対する赤色のランドセルの割合である。

年代	最も多い色	色を決めた理由（上位1つ）
小学生	茶色	好きな色を選んだ
高校生	赤	好きな色を選んだ
18（高校生含まない）～40歳未満	赤	当時の流行だった
40歳～60歳未満	赤	性別で決められていた

表1

上記の表1は、各世代別の持っていた(持っている)ランドセルの色のうち最も多かった色とその色に決めた理由のうち最も多かった理由を表に示したものである。

(2)考察

まず、製作技術の向上でランドセルの色が多くなったという見方もあると思われる。しかしこのような動きは購入する側である、小学生やその家族のニーズがないと行われぬものだと考えられる。また、表1の小学生の結果から好きな色を選んだ上で茶色が多かったことがわかる。このことから現在の小学生は自分の好きな色を選ぶことが可能になっており、女の子は赤色が当たり前だという固定観念が薄れてきていることが考えられる。



さらに、60歳以上の人々の最も多かった自分のランドセルを選んだ理由について、「性別で決められていたから」と回答している。この結果から、この世代にはランドセルの色について男女の偏見があったことが考えられる。左の写真は、昔の小学一年生という大衆雑誌の表紙上でも偏見を助長するように、女の子は赤色のランドセル、男の子は黒色のランドセルを背負っている。例に上げた左の表紙だけでなく雑誌の挿し絵にもこのよう

なイラストを多く使っている傾向が見られたことから、雑誌などのメディアには偏見や固定観念に対し影響力があると考えられる。

そこで現代の小学一年生の表紙と比較してみる。現代の表紙上では女の子は紫色のランドセル、男の子は青色のランドセルを背負っている。このことから、昔あった性別で赤や黒を強要する風潮は薄れ個人の好みを尊重することができるようになってきていると考えられる。

4. まとめ

現段階での結果から、ジェンダー観は長い時間を経て徐々に弱まっていると考えられる。

しかし、このような風潮になるのにも多くの時間がかかったことから、偏見が完全に撤廃されるということはないだろう。よって自分の心にある偏見を相手に押し付けないことが重要だと考えた。

また、周りの環境がランドセルの色を決めることに影響しているとあるが、その環境をより良いものにしていくことで、色の強制や偏見などが薄くなっていくのではないだろうか。

デジタル化されている社会の中で雑誌などと共にSNSも強く影響を与えるものの一部である。

これらを有効活用することが固定観念撤廃への第一歩となるだろう。

## 5. 課題と展望 ももか

今後の展望として、一つ目に、今回は回答が集まらず女性のみ結果となってしまったため男性の回答も入れて結果を出したい。また、仮説で『色の種類が増えたのは、雑誌などの影響』と出したため雑誌の部分だけでいうと、表紙の写真に使われていふこの表紙を作るにあたってなぜこの色のランドセルを選んだのか、小学館の編集部に問い合わせ理由を聞きたいと思った。三つ目に、小学校生活を実際に経験してみて、いま、ランドセルを選ぶなら何色のランドセルを選ぶかなどの調査を行いたい。

最後に、この研究の目的である固定観念を無くすための対策がまだ出せていないので研究結果をもとに考えていきたい。

## 6. 謝辞

研究にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導して下さったアドバイザーの方、津嶋先生、宮崎先生、また、アンケート・情報提供者に、心より感謝申し上げます。

## 7. 参考文献

林 雅代・山田 彩佳 (2022)

「ランドセルの歴史と日本人のジェンダー観の関連に関する研究」20acajinshi24\_11\_hayashi\_masayo\_yamada\_ayaka 3.pdf

[https://nanzan-u.repo.nii.ac.jp/record/4120/files/acajinshi24\\_11\\_hayashi\\_masayo\\_yamada\\_ayaka.pdf](https://nanzan-u.repo.nii.ac.jp/record/4120/files/acajinshi24_11_hayashi_masayo_yamada_ayaka.pdf)